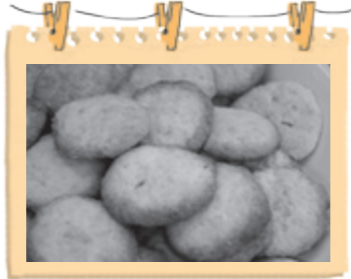




ホープス
「希望の声届けます」
HOPEES

横山頂一さん（前田・八和赤）

「村内のようすを写真を通して伝えたい」横山さんは震災後から村内の写真撮影を続け、その一部を松川第一仮設住宅内飯館村直売所「なごみ」で展示を行っています。写真を見た村民の方から「懐かしいね」「ありがとう」の声が励みになっていっているそうです。今後は、村の写真集や絵カードを作りたいと話す横山さん。「自分が伝えられる今を、飯館村の人だけでなく県内外の人や世界中の人たちにも伝えることに意味があると思っています」。



つくってたべよう

おからクッキー

9月14日敬老会で配られました。
協力：飯館村食を考える会

- (材料 40枚分)
- ・薄力粉 150g
 - ・おから 100g
 - ・バター 100g
 - ・砂糖 90g
 - ・卵 1個
 - ・ベーキングパウダー 小さじ1

- (作り方)
- ①薄力粉をふるう。バター、卵を室温に戻す。
 - ②おからを平皿に広げ、電子レンジで1分加熱し乾燥させる。
 - ③バターを練り、白っぽくなったら砂糖、溶いた卵を加えて混ぜる。
 - ④おから、薄力粉を加えて木べらで粉っぽさがなくなるまで切るように混ぜる。
 - ⑤ラップに包み、30分ほど冷蔵庫でねかせる。
 - ⑥生地を手で丸めてつぶし、180℃のオーブンで20分焼く。

宝くじの助成金で整備しました



▲今回の事業で整備した一部です



コミュニティ助成事業とは

宝くじの社会貢献広報事業として、コミュニティ活動に必要な備品や集会施設の整備、安全な地域づくりと共生のまちづくり、地域文化への支援や地域の国際化の推進及び活力ある地域づくり等に対して助成を行っています。

地域のコミュニティ活動の充実・強化を図ることに、より、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与するための事業です。

上飯樋行政区では、震災前は、口頭または回覧版などによって集会等の通知を行っていましたが、現在は住民が広く避難していることから文書を作成。それぞれのご家庭に送付をしています。

上飯樋行政区では、震災前は、口頭または回覧版などによって集会等の通知を行っていましたが、現在は住民が広く避難していることから文書を作成。それぞれのご家庭に送付をしています。

入札結果をお知らせします。

入札日／9月4日（単位：円）

工事（業務）の番号・名称	契約額（税込み）	請負業者	完成予定
村道機能回復（パッチング）業務（1）	3,866,400	（有）福相建設	平成26年12月上旬
村道機能回復（パッチング）業務（2）	3,780,000	濱田建設工業(株)	平成26年12月上旬
村道機能回復（パッチング）業務（3）	4,028,400	（有）渡建工業	平成26年12月上旬
水上線舗装機能回復業務	1,814,400	（有）渡建工業	平成26年12月上旬
帰還再生生活道路整備工事（2）	5,724,000	濱田建設工業(株)	平成26年11月末
大谷地団地建替団地全体基本設計業務	5,400,000	(株)久慈設計 東京支社	平成27年3月末
子育て支援センター備品購入	3,186,000	(有)白井木工所	平成26年11月末
携帯型放射線測定器校正点検業務	12,366,000	(株)エフコム	平成27年3月末
震災記録整備事業 デジタルアーカイブシステム構築業務	22,680,000	東日本電信電話(株) ビジネス&オフィス営業推進本部	平成27年3月末

こころのぽけっと

財産としての年月

避難先で4回目の敬老会を迎えました。皆さんに元気な顔を見せてもらい、私に一時のいやしの時間をいただきました。そのような中で、ある言葉を思い出したのです。

それは「私から年齢を奪わなうべからず。これは、私が年月をかけてつくった財産なのですから」というものです。誰が言ったか忘れてしまいましたが、とても素敵な言葉なので心に残っていました。自分もこんな年のとり方が出来ないものかと思ったものでした。

これは、どんな苦労や苦難があっても、そこを自分なりにしっかりと生きてきたので「すべて私の財産なんだ」という自信の表れでありましょう。自分の歩んできた人生の中で、どんなことへでも一つひとつ全力で受けとめ、自分の「こやし」として生きてきたという前向きな考え方に何とも言えないさわかさが感じられたものでした。

今私たちは、やりきれない思いの生活を強いられていますから、それをとても「財産」などとは思いませんが、この4～5年間の苦労も自分の人生の財産なんだと考えれば、これまでよりも少し気が楽になるかもと思えてきました。

「一生の終わりに残るものは、私たちが集めたものではなく、私たちが与えたものである」という言葉もあるそうです。もう一人だけの人生で「ただ老いる」だけでなく、「与える」的な毎日をご自身の力で自分にか出来ない「財産」をつくること(こころ)のことです。

この避難中、すい分多くの方にいろ与えてもらいました。今度は私たちが与える番のような気がします。家族に愛を、よその方思いやりを、そして次の世代に私たちの熱い心をしっかりと与え残していきたいものです。

平成26年9月18日 飯館村長 菅野 典雄